

2007年6月8日
株式会社 J-オイルミルズ

環境配慮とユニバーサルデザインの改善 「エコボックス」が「木下賞」を受賞

【概要】

株式会社 J-オイルミルズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：佐々木 晨二）と凸版印刷株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：足立 直樹）は、環境配慮とユニバーサルデザインの両面を改良した「豊年一番搾りキャノーラ油 エコボックス」（凸版印刷の食用油容器「やさしいエコテナー」を採用）で、（社）日本包装技術協会が主催する「第31回木下賞 改善合理化部門」を受賞しました。

【「豊年一番搾りキャノーラ油 エコボックス」について】

当社では、環境に配慮した商品の開発・製造に取り組んでいます。
1993年に「エコテナー（凸版印刷）」を採用してエコボックスを発売し、食用油容器としては初めて「環境対応型容器」として「エコマーク商品」の認定を受けました。
この容器は、プラスチックボトルに比べ樹脂使用量を約65%削減しており、また使用後の紙製外箱とプラスチックの分別が容易であることから、エコマークの認定を15年間受けています。
06年秋のリニューアル発売で「豊年一番搾りキャノーラ油 エコボックス」は、使用時の持ちやすさ、傾けやすさ、滑りにくさなどを改良し、環境配慮の観点から、大豆油インクを採用しました。

（a）ユニバーサルデザイン

外箱の両側面にミシン目で指穴を設置。
ここに持ち手の親指と中指をかけられ、持ちやすくなりました。
滑り止めとして、外箱に水性ハイグロスニス、指穴の下部に波形のエンボス（凹み）を施しました。
女性の手のひらサイズでも容易に持てるよう、側面がくびれる加工を施しました。
必要な情報を大きく、見やすく、わかりやすく表示しました。

（b）更なる環境配慮への取り組み

納入はスリーブ状で、内容物充填時に組み立てるため、在庫スペースが削減できます。
リサイクル可能な外箱（再生紙使用）は折りたたみため、使用後の分別が容易です。
大豆油インクを採用し、リサイクル適正が向上しました。

【「木下賞」について】

社団法人日本包装技術協会（JPI）が主催し、JPI第2代会長である故木下又三郎氏の包装界に対する功績を記念して設定された表彰制度です。
本賞は、包装技術の研究・開発に顕著な業績をあげたものや、包装の合理化・改善・向上に顕著な業績をあげたものに与えられます。
今回で31回目となり、5月24日に発表・表彰が行われました。

<本件に関するお問い合わせ先>
株式会社 J-オイルミルズ
油脂事業企画部製品開発室 / 荻原
TEL: 03-5148-9812

